

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第3部門第3区分
 【発行日】平成23年10月6日(2011.10.6)

【公開番号】特開2009-102619(P2009-102619A)
 【公開日】平成21年5月14日(2009.5.14)
 【年通号数】公開・登録公報2009-019
 【出願番号】特願2008-241003(P2008-241003)
 【国際特許分類】

C 0 9 J 7/02 (2006.01)
 B 3 2 B 7/02 (2006.01)
 B 3 2 B 27/00 (2006.01)

【F I】

C 0 9 J 7/02 Z
 B 3 2 B 7/02 1 0 3
 B 3 2 B 27/00 M

【誤訳訂正書】
 【提出日】平成23年8月24日(2011.8.24)
 【誤訳訂正1】
 【訂正対象書類名】明細書
 【訂正対象項目名】0 0 0 5
 【訂正方法】変更
 【訂正の内容】
 【0 0 0 5】

ポリマー製スクリーンは確かに價格的に有利であり加工し易くそして機械的作用に対して効果的な保護を提供するが、一般に引っ掻き耐久性がなくそしてそれ故に容易に損傷されるという欠点を有している。このことは既に僅かな時間の後にディスプレイシステムの審美的印象を悪化させるだけでなく、更に結果的にディスプレイモジュールの表示領域の外観を悪化させる。更に多くの一般的ポリマーは紫外線又は有機溶剤に対しての耐久性に限界がある。

【誤訳訂正2】
 【訂正対象書類名】明細書
 【訂正対象項目名】0 0 1 3
 【訂正方法】変更
 【訂正の内容】
 【0 0 1 3】

この場合、これらの層によって各々達成できる機能を考慮して個々の層の具体的な空間的配列が本発明にとって特に寄与する。本発明の効果は屈折率に関与して具体化された材料の相対的な配置に基づいている。

【誤訳訂正3】
 【訂正対象書類名】明細書
 【訂正対象項目名】0 1 2 1
 【訂正方法】変更
 【訂正の内容】
 【0 1 2 1】

全体としては接着剤の組成は反応成分の種類及び割合を変更することによって広い範囲で変更することができる。同様に、別の生成物特性、例えば色、熱又は電気の伝導性は補助物質の添加によって意図的に調整することができる。この目的のためには接着剤は別の処方成分及び/又は補助物質、例えば軟化剤(可塑剤)、充填剤(例えば繊維、酸化亜鉛

粒子、中実の又は中空のガラス粒子、他の材料よりなる微細粒子、珪酸、珪酸塩)、伝導性材料(例えば金属塩の微量物質未混入の又は微量物質混入の共役ポリマー又は金属塩)及び/又は老化防止剤(例えば第一又は第二酸化防止剤)又は光安定剤を含んでいてもよい。この場合、特別な波長範囲の光が粘着剤を透過するのをこれらの成分が減少させないか又は殆ど減少させないことが重要である。これは、これらの種類の助剤の他に接着剤中の助剤の濃度並びに助剤の具体的な使用形態、例えば平均粒度に依存している。このような別の成分、例えば充填剤及び可塑剤を含む接着剤の処方も同様に従来技術である。

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0129

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0129】

適するラジカル開始剤系のラジカル源の例には例えばペルオキシド、ヒドロペルオキシド及びアゾ化合物、例えばペルオキシ二硫酸カリウム、ジベンゾイルペルオキシド、クモールヒドロペルオキシド、シクロヘキサノンペルオキシド、ジ-第三ブチルペルオキシド、アゾジイソブチロニトリル(AIBN)、シクロヘキシルスルホニルアセチルペルオキシド、ジイソプロピル-ペルカルボナート、第三ブチルペルオクトエート、ベンズピナコール等がある。ラジカル開始剤として例えばDuPont社からVazo 88TMの名称で市販されている1,1'-アゾビス-(シクロヘキサンカルボン酸ニトリル)を使用することができる。

【誤訳訂正5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0130

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0130】

ラジカル重合の際に生じる接着剤の数平均分子量 M_n は例えば、200,000~4,000,000g/molの範囲内にあるように選択する。特にホットメルト粘着剤として使用するために、400,000~1,400,000g/molの平均分子量 M_n を有する粘着剤を製造する。平均分子量の測定はサイズ排除クロマトグラフィー(SEC)又はマトリックス支援レーザー脱離イオン質量分析(MALDI-MS)によって行う。

【誤訳訂正6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0131

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0131】

重合は塊状で、1種類又は複数種の有機溶剤の存在下に、水の存在下に又は有機溶剤と水との混合物中で実施することができる。この場合に、一般に、使用される溶剤の量はできるだけ少ない量で含有しているべきである。適する有機溶剤には例えば純粋のアルカン類(例えばヘキサン、ヘプタン、オクタン、イソオクタン)、芳香族炭化水素(例えばベンゼン、トルエン、キシレン)、エステル(例えば酢酸エチルエステル、酢酸プロピルエステル、酢酸ブチルエステル又は酢酸ヘキシルエステル)、ハロゲン化炭化水素(例えばクロロベンゼン)、アルコール(例えばメタノール、エタノール、エチレングリコール、エチレングリコールメチルエーテル)及びエーテル(例えばジエチルエーテル、ジブチルエーテル)並びにそれらの混合物がある。水中重合反応は、反応混合物がモノマーの反応の間に均一相として存在することを保証するために、水と混和可能な又は親水性の共溶剤と混合してもよい。共溶剤は例えば脂肪族アルコール、グリコール、エーテル、グリコールエーテル、ピロリジン類、N-アルキルピロリジノン類、N-アルキルピロリドン類、

ポリエチレングリコール、ポリプロピレングリコール類、アミド類、カルボン酸類及びそれらの塩、エステル、オルガノスルフィド類、スルホン類、アルコール誘導体、ヒドロキシエーテル誘導体、アミノアルコール類、ケトン類等並びにそれらの誘導体及び混合物が使用できる。

【誤訳訂正 7】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 1 3 6

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 1 3 6】

$R^{\$1}$ 及び $R^{\$2}$ は互いに同じでも又は互いに無関係に選択できそして $R^{\$3}$ は場合によっては $R^{\$1}$ 及び $R^{\$2}$ の両方の基と同じでも異なって選択してもよい。これらの残基は以下の群から選択される：

- 直鎖状でも分岐していてもよい $C_1 \sim C_{18}$ - アルキル残基、 $C_3 \sim C_{18}$ - アルケニル残基及び $C_3 \sim C_{18}$ - アルキニル残基；
- $C_1 \sim C_{18}$ - アルコキシ残基；
- 少なくとも1つのOH基又はハロゲン原子又はシリルエーテルで置換された $C_1 \sim C_{18}$ - アルキル残基、 $C_3 \sim C_{18}$ - アルケニル残基及び $C_3 \sim C_{18}$ - アルキニル残基；
- 炭素鎖中に少なくとも1つのO原子及び/又は NR^* - 基を持つ $C_2 \sim C_{18}$ - ヘテロアルキル残基、但し R^* は任意の残基、特に有機残基である；
- それぞれ少なくとも1つのエステル基、アミン基、カルボナート基、シアノ基、イソシアノ基及び/又はエポキシ基及び/又は硫黄で置換されている $C_1 \sim C_{18}$ - アルキル残基、 $C_3 \sim C_{18}$ - アルケニル残基及び $C_3 \sim C_{18}$ - アルキニル残基；
- $C_3 \sim C_{12}$ - シクロアルキル残基；
- $C_6 \sim C_{18}$ - アリール残基及び $C_6 \sim C_{18}$ - ベンジル残基；
- 水素。

【誤訳訂正 8】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 1 4 0

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 1 4 0】

1 ~ 18 の炭素原子を含有するアルキル残基の例には、メチル、エチル、プロピル、イソプロピル、ブチル、イソブチル、第三ブチル、ペンチル、2 - ペンチル、ヘキシル、ヘプチル、オクチル、2 - エチルヘキシル、第三オクチル、ノニル、デシル、ウンデシル、トリデシル、テトラデシル、ヘキサデシル及びオクタデシルがある。

【誤訳訂正 9】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 1 5 5

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 1 5 5】

重合のための制御された調整剤として以下の種類の化合物も同様に使用することができる。

- 2,2,5,5-テトラメチル-1-ピロリジニルオキシ (PROXYL)、3-カルバモイル - PROXYL、2,2-ジメチル-4,5-シクロヘキシル - PROXYL、3-オキソ-PROXYL、3-ヒドロキシイミン-PROXYL、3-アミノメチル-PROXYL、3-メトキシ - PROXYL、3-第三ブチル - PROXYL、3,4-ジ-第三ブチル - PROXYL；
- 2,2,6,6-テトラメチル - 1 - ピペリジニルオキシ (TEMPO)、4-ベンゾイルオキシ - TEMPO、4-メトキシ - TEMPO、4-クロロ - EMPO、4-ヒドロキシ - TEMPO、4-オキソ - TEMPO、4

- アミノ - TEMPO、2,2,6,6, - テトラエチル - 1 - ピペリジニルオキシド、2,2,6 - トリメチル - 6 - エチル - 1 - ピペリジニルオキシド；
- N - 第三ブチル - 1 - フェニル - 2 - メチルプロピルニトロキシド；
- N - 第三ブチル - 1 - (2 - ナフチル) - 2 - メチルプロピルニトロキシド；
- N - 第三ブチル - 1 - ジエチルホスホノ - 2,2 - ジメチルプロピルニトロキシド；
- N - 第三ブチル - 1 - ジベンジルホスホノ - 2,2 - ジメチルプロピルニトロキシド；
- N - (1 - フェニル - 2 - メチルプロピル) - 1 - ジエチルホスホノ - 1 - メチルエチルニトロキシド；
- ジ第三ブチルニトロキシド；
- ジフェニルニトロキシド；
- 第三ブチル - 第三アミルニトロキシド。

【誤訳訂正 1 0】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 1 7 4

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 1 7 4】

次に最初に反射防止剤の幾つかの例を第一の機能層として挙げるが、本発明で使用できる反射防止剤はこれらの例示に選択を限定されない。単一層の反射防止剤としては例えば無機又は有機材料よりなる層を使用することができる。この様な無機層は例えば 550 nm の波長の光のもとで 1.35 の屈折率 n_d を有するフッ化マグネシウム (MgF_2) を含有している。同様に他の酸化物、例えば二酸化珪素 (SiO_2) 又は酸化珪素 (SiO)、並びに金属酸化物、例えば二酸化チタン (TiO_2)、酸化ハフニウム (HfO_2)、酸化マグネシウム (MgO)、二酸化ジルコニウム (ZrO_2) 又は酸化タンタル (Ta_2O_5) よりなる層が適する。これらの酸化物を除く他の材料も使用することができる。例えば窒化珪素 (SiN_x) の様な窒化物も使用できる。

【誤訳訂正 1 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 2 2 1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 2 2 1】

ポリマー 3 を製造するために 0.739 g の二官能性アルコキシアミン及び 0.0287 g の遊離窒素酸化物を 10 : 1 のモル比で開始剤として使用する。これを 128 g の蒸留イソボルニルアクリレート及び 192 g の蒸留 2 - エチルヘキシルアクリレートとの混合物と混合する。この混合物は後のポリマーブロック P (B) の前記のモノマー B に相当する。反応混合物を - 78 の温度に繰り返し冷却しながら脱気しそして次に密閉された耐圧反応器中で加圧下に 110 の温度に加熱する。36 時間の反応時間の後に反応混合物に別のモノマーとしての 180 g の蒸留 o - メトキシスチレンを添加する。このモノマーは後のポリマーブロック P (A) の前記モノマー A に相当しそしてこの反応混合物をこの温度で更に 24 時間維持する。